



慢性期医療、そして介護と福祉だ。

「地域の人に愛されることがなによりです」と話す浅野

昭和53年に開院し、医療圏である吉野川市・阿波市・石井町の地域医療を支えてきた鴨島病院は、大きく3つの役割を担っている。急性期病院の受け皿としての「回復期リハビリテーション」、

病院長。院長自身も、元の中学生に向けて、専門である脳科学の視点から子どもたちの成長と発達について講話をするなど、地域貢献にも意欲的だ。地元の医療機関との連携や高齢の方への運動支

地域完結型医療の達成を目指して

医療法人徳寿会 鴨島病院 病院長 医学博士 浅野 登氏

援、支援学校との関わりなど地域貢献にも病院全体で積極的に取り組んでいる。

「病状の把握を主治医個人で行うのではなくグループ診療で、より質の高い見落としのない医療を目指しています。安全対策・感染対策、そして認知症予防など高齢化対策にも重点的に取り組み、患者さまとご家族が安心して過ごせる病棟づくりをしています。

す」。

2020年には新病棟が完成し新たなスタートを切った。「快適なアメニティは職員のモチベーションにもつながります。時代に応じたりハ機器の投資もそのなかのひとつです」。

今後のさらなる抱負をこう話す。「電子カルテの導入と定着。そして災害医療やSEの専門家を発掘・確保すること

とで、より一層の医療・看護の充実を図ります」。

「日頃から、『艱難^{かんなん}汝^{なんぢ}を玉となす』を座右の銘にしています。努力する人は必ず磨かれます。これからも公平無私をモットーに、職員の努力が報われる病棟づくりをしていきたい」と浅野院長。苦勞を重ねて得られた成果こそ、患者さまと職員双方の喜びにつながることを確信している。